



Beijo Me Liga

Beijo Me Liga は東海大学の学生らによって 2009 年に設立されました。私たちは日本にたくさんある外国学校の子もたちと交流することで、外国人コミュニティと日本の社会を結び、子どもたちが日本の文化や言語に親しめるよう活動しています。これまで茨城県のエスコラオプション (Escola Opção) や群馬県の日伯学園、岐阜県の HIRO 学園などと、長期にわたり親睦を深めてきました。彼らの主催するイベントに参加したり、私たちのイベントに彼らを招待したりしています。彼らとは、イベントで一回顔を合わせるだけの関係ではなく、彼らの学校を訪問して普段の様子を知り、個人個人で出会うことで、絆を深めています。日本語の授業をさせてもらったり、先生たちのお手伝いサポートをしたりもしています。

フォロー大歓迎！
興味のある方は是非チェックしてみてください！

【Twitter】
@BML_Brazil

【Facebook】
@beijosss.kisss

【Instagram】
@beijomeliga_tokai



質問など以下にご連絡ください。
beijomeliga.u.tokai@gmail.com

Beijo Me Liga

Newsletter

2017.10 創刊号

由緒あるキララ賞を受賞しました！
恒例のフェスタジュニーナや
マルチカルチャーキャンプ、
国際フェアやフォホー（ブラジルのダンス）教室など
精力的に活動しています。

2016.2 かながわ若者生き生き大賞受賞

2016 年 2 月、東海大学チャレンジプロジェクト Beijo Me Liga は活動が評価され、生活クラブ生協から「かながわ若者生き生き大賞（キララ賞）」が授与されました。

「もう一つのノーベル賞」といわれるライト・ライブリフッド賞を受賞した生活クラブ生協は、その喜びを多くの人と分かちあいたいと 1991 年に「かながわ若者生き生き大賞（キララ賞）」を創設しました。以来、毎年若者たちのキラリと光る活動に対してこの賞を贈ってきました。この由緒あるキララ賞に、2016 年度は Beijo Me Liga が選ばれました。在日ブラジル人の子もたちと学生の間に豊かな人の交流があること、難しい環境下におかれる在日ブラジル人の子もたちと大学生が接することで、相互に影響を与える活動である点が評価されました。

2016.2 Coração Camp

昨年の豪雨で甚大な水害を経験したブラジル学校 "Escola Opção" と一緒に、茨城県の常総市で Coração Camp (コラソン・キャンプ: coração は日本語で「心」) を開催しました。「お話の会」という企画を盛り込み、水害の経験談や言葉の壁などがあって大変だったことを話してもらいました。彼らにとって私たちとの関わりがいかに大きなものなのか、ということを経験の口から聞くことで活動の意味を再確認することができました。

2016.12 国際フェア

恒例の国際フェアではさまざまな国のブースが開かれ、各国の文化や生活習慣が紹介されています。私たちは毎年ブラジルブースを担当し、サンバの衣装を展示したり、ブラジルコーヒーやお菓子を提供したりしています。2016 年は「ブリガデyro」という一口サイズのチョコレート菓子をふるまいました。ブラジルに馴染みのない学生にも、活動を知ってもらえるきっかけとなっています。2017 年にはブラジル学校の方にも協力していただき、伝統舞踏のクアドリーリャ（スクエアダンス）を参加型で紹介する予定です。

2016.2 - 2017.8 activities



2016.11 建学祭

模擬店でブラジルの牛串 BBQ「シュハスコ」と、「ガラナ」というブラジルの炭酸飲料を販売し、多くのお客様にブラジルの食文化を体験してもらいました（*）。屋内展示では、過去のマルチカルチャーキャンプの写真やパンフレットを展示しました。ブラジルの子もたちとの交流の楽しさが伝わる写真を選んでスライドショーにして、ブラジルの音楽と共に上映もしました。来場者からは「とても楽しそう、活動に参加してみたい」という声をたくさんもらいました。

* 以前は模擬店の売上金の一部を神奈川県愛川町のブラジル人学校「エスコラ・アクアレラ」に寄付していました。残念ながら現在は閉校となってしまったため、近年の売上金は私たちの活動費に充てています。

2016.12 Opção 卒業式

茨城県のブラジル人学校 "Escola Opção" では毎年 12 月に卒業式が開催されます。私たちはみんなで現地に足を運んで式典に参加し、卒業していく友人たちをお祝っています。日本の卒業式とは異なって、卒業証書授与の際に自分の好きな音楽を流してもらったり、学年ごとに歌やダンスを披露する場が設けられているなどの特徴があります。卒業後は進学や就職をして、日本に残る人やブラジルに帰ってしまう人もいますが、どこへ行こうと彼らとは一生の仲間です。

2017.4

イースター祭

クリスチ안의多いブラジルでは、キリストの復活を祝うイースター祭はとても大切なお祭りです。愛川町や厚木市に住むラテン系住民がたくさん集まるお祭りで、私たちは「イースターエッグ」の遊びを受け持っています。1ヶ月前からメンバーが卵を食べまくって 200 個近くの殻を集め、その上から絵を描いたり、テープやリボンで飾りつけをします。その中にお菓子を詰め込んで公園のあちこちに隠し、子どもたちに探し出してもらいます。卵を貰った子どもたちは大喜びで「この卵の方が可愛い」「この卵の方がかっこいい」など素直な感想を言い合っていました。苦労して卵を食べ、準備したかいがありました。

2017.6

Community Workshop by Escola Opção

日本とブラジルの文化をワークショップとして紹介する催し。お寿司作りやカボエラのワークショップがあり、私たちは、参加者のお子さんを預かったり、要らない雑誌を使ってお花を作るワークショップのお手伝いをしました。また、サンバやカボエラのワークショップにも参加して、一緒に踊ったり歌ったりして楽しみました。言語が分からなくても笑顔が生まれ心が通じ合えた時とても嬉しくなりました。

このワークショップは茨城県常総市で開催されましたが、静岡から参加してくれた人もいました。オプソンの生徒たちが中心になって企画しており、パイオリンの演奏発表などをしてくれました。私たちはお手伝いとして参加しましたが、ワークショップにも参加させてもらい、とても楽しかったです。



2017.5

フォホー教室

今年は愛川町に住むブラジル人のダンスの先生を呼んで、フォホー（*）教室を開いていただきました。男女ペアになり、男の子が女の子をリードする形で始まります。最初、初めて体験するフォホーに戸惑ったメンバーたちも、基本のステップから応用まで体系的な理解ができてからは、先生のラテン系の楽しい雰囲気も相まって肩の力がほぐれ、純粋に楽しむことが出来ました。最後にはフェスタ・ジュニーナで踊るクアドリーリャと呼ばれるスクエアダンスを指導していただきました。

*ブラジルといえばサンバ!ではなくフォホーというダンスが人気なのを知っていますか? 日本では知名度こそないものの、ブラジルではこのダンスが踊れないとちょっと恥ずかしいかも? くらい伝統的なダンスです。フォホーは、社交ダンスに南米のカジュアルさを取り入れたリズムカルな踊りが特徴的。

2017.7

フェスタジュニーナ

フェスタ・ジュニーナ（6月祭り）は、ブラジルが真冬なら日本は真夏! 汗だくだくになりながら、Beijo Me Liga は今年 3 回ものフェスタ・ジュニーナ（*）に参加しました。

一つ目は、神奈川県厚木の愛川町に住むブラジル人たちと東海大学生たちとで一緒に開催したフェスタ。子ども達と色々なアクティビティをして楽しんだ後、ビンゴをしました。このビンゴは参加費 500 円で、みんな一等賞の景品を目指して数字が出る度に喜怒哀楽の表情を浮かべて楽しみました。この参加費は名古屋に住むある外国籍の子どもの難病治療のための募金に当てられました。ビンゴを終えた後、田舎者の結婚式の寸劇を行い、クアドリーリャでますます盛況に!

2つ目は茨城県常総市にあるエスコラ・オプソン (Escola Opção)。学校の生徒たちが運営していて、ガラナ、シュハスコ、パステウなどの屋台を構えて、生徒たちもダンスの発表などを披露してくれ、学校ならではのフェスタジュニーナを作っていました。

3つ目は群馬県にある日伯学園。こちらも生徒たちがフェスタジュニーナを運営していて、ダンスやサッカーを披露してくれました。私たちも運営のお手伝いをして、会場の飾り付けや催し物の製作、子どもたちが遊ぶ輪投げやストライクアウト、魚釣りなどのブースのお手伝いをしました。

*ブラジルで 6 月といえば真冬。この時期にブラジル各地で祝われる伝統行事です。男性は田舎の農夫風にチェックのシャツを着て麦藁帽子をかぶり、口元に髭を描いてユーモア溢れる格好に大変身。女性はチェック柄のワンピースを着て、髪を三つ編みにし、ほっぺたをほんのり赤くさせ、そばかすの化粧をします。田舎者の結婚式の寸劇をみんなで演じるのが恒例で、その後クアドリーリャという踊りを周りの人たちを巻き込みながら楽しめます。



2017.8

マルチカルチャーキャンプ

1 日目

今年は雨が予想されていたマルチカルチャーキャンプ（*）ですが、蓋をあけてみると気持ち良い晴天のキャンプ日和。一日目は、体をつかったアイスブレイクから始まりました。体も動かし汗が滴る頃には、メンバーと参加者という垣根はなくなります。一息つく間もなく、マルチカルチャーキャンプ恒例キッズゲルニカこと「巨大絵」のアクティビティへ。元々は「巨大なキャンパスに絵を描きましょう」という趣旨だったこのアクティビティも、子どもたちの遊び心に火をつけ、いつしか「絵の具かけ合い合戦」へと姿を変えていきます。巨大なキャンパスの上で大学生と子どもたちが容赦ない絵の具のかけ合い。はたから見るとカオスなこの光景も、その空間には確かに純粋な笑顔が溢れていました。洗えども洗えども落ちない絵の具などお構いなしに、キャンプは進んでいき二日目を迎えます。

2 日目

この日は大学近くの公園でスポーツ大会。そしてランタン作り。夏祭りを主題とした屋台巡り。そして夜はサラウ。

スポーツ大会では大学生と参加者を混ぜたチームを作り、リレーや大縄跳びの競争で、コミュニケーションが一層深まりました。ランタン作りでは、紙とペットボトルをみんなに配り、手づくりランタンを作成しました。夜になって皆のランタンに火が灯り、幻想的な空間に取り囲まれながら夕食をみんなで食べたのは良い思い出です。そして屋台巡りでは、夏祭りの屋台を模した射的や水風船、浴衣写真撮影などのコーナーをキャンプ前日までかけて手作りしました。

最後に、サラウ。サラウとは夜におこなうブラジルのイベントで、参加者が即興で歌を歌ったり、ギターや楽器、ダンスが得意な人はそれを披露し合います。最初は恥ずかしそうにしていたみんなも、参加者が即興でやるダンスや歌に感化され、盛り上がりが最高点に達しました。

3 日目

三日目。最後のアクティビティーは「ピオダンサ」という、みんなを巻き込むダンス。あれだけの人数が入るには狭かったけれど、教室の中でハグをしあい、二泊三日のキャンプの思い出を振り返りました。中には涙を流す参加者や Beijo のメンバーもチラホラと。ここまで来ると、みんなの間に家族に似た愛情と温かさが教室中を包み込みます。

普段、出会う機会の少ない外国籍の子どもたちと日本人との二泊三日のキャンプ。言葉が通じなくともハグやボディランゲージだけで伝わる愛情。私たち日本人にこそ、出会いとふれあいの大切さに気づかせてくれるキャンプです。日本の文化と異文化の融和から生まれる景色は、机に向かってどんなに勉強しようともえられない体験です。このキャンプでえられるものは、人生の幸せのヒントを見つける作業に他なりません。

*Beijo Me Liga の活動の魅力が詰まった大規模なキャンプです。毎年多いときには二回、三回とブラジルをはじめとする外国籍の子どもたちを招いて、120～200 人規模もの参加者と共に、様々な文化が入り混じった二泊三日の濃密な時間を過ごします。今年のキャンプの主題は「夏祭り」。